

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2019.WINTER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. 27

授業紹介 - 教育の現場 -

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集

広がるダイバーシティの裾野
— 持続する知と人財の創出 —

真の強さを学ぶ。



新潟大学



多様で優秀な人材の活躍を推し進めるため設置された男女共同参画推進室が今年10年を迎える。様々な取り組みの下、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献すべく、性別などに関係なく個性と能力を発揮できる環境を整備してきた。昨年末には「Forbes JAPAN WOMEN AWARD 2018」の企業部門・従業員数1,000名以上の部において第7位に輝くなどダイバーシティを学内外に浸透させる気運が高まる今、本学のダイバーシティ推進の現状に迫る。

新潟大学の男女共同参画の歩み	
平成19年度 女性研究者支援室の設置	研究補助者の雇用制度
平成20年度 文部科学省「女性研究者支援モデル育成」事業採択	新大シッターによる保育
平成22年度 新潟大学男女共同参画宣言	サイエンス・セミナー
一般事業主行動計画（次世代育成法）策定	
平成23年度 「くるみん」取得	新潟県ハッピーパートナー企業登録
平成26年度 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業採択	
平成27年度 文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業採択	
新潟大学の女性教員比率向上のためのポジティブ・アクション宣言	
平成28年度 新潟大学ダイバーシティ推進委員会の発足	
一般事業主行動計画（次世代育成法・女性活躍推進法一体型）策定	



西原亜矢子 特任助教

中野享香 准教授

「新潟大学では平成19年度に女性研究者支援室が設置され、翌年には文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業に採択されました。当初は女性研究者の育成と、仕事と生活の両立環境の整備が目的でした。その背景には、平成18年の第3期科学技術基本計画に女性研究者比率の数値目標が掲げられたことがあります。これは少数派だった女性研究者の声に応える目的もあったようです」（中野准教授）

男女共同参画推進室 設置の経緯と 社会的な背景

平成11年の男女共同参画社会基本法の制定以来、国内ではその推進に関わる様々な取組が行われてきた。また、近年ではダイバーシティ（多様性）の推進として、性別だけでなく国籍、年齢、障がい、文化・宗教的背景などによる差別をなくし、社会の全構成員が平等に尊重され活躍できる環境づくり

が求められている。その中において、新潟大学は新たな知の創造、次世代に活躍する人材養成の場として、教職員から学生までが持つ力を存分に発揮できる環境づくりを進めている。中核を担うのは男女共同参画推進室。その歩みと今後の展望について担当の中野享香准教授と西原亜矢子特任助教に話を聞いた。

特集 広がるダイバーシティの裾野 ―持続する知と人財の創出―

2019.WINTER vol.27

CONTENTS

03 特集

広がるダイバーシティの裾野 ―持続する知と人財の創出―

08

授業紹介 ―教育の現場―

09

Enjoy! 学生ライフ

10

注目される研究報告

12

シリーズ 恩師と語らう

13

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

14

OBOG・教員によるコラム

15

基金関係のお知らせ

16

Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実！

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。

f @niigata.univ
t @Niigata_Univ_O
i @niigata_university



Cover Photo

中央図書館は、学生達がグループで学習できる会話可能な自習エリア「ラーニングcommons」を有する。その中のFL-SALCでは、外国語の自律学習をサポートすべく定期的に留学生との自由会話が行われている。

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題 字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授



プレイルームの様子

**国の助成を受けて
取組は加速、
さらに地域へも波及**

取組がこれほどまでに展開したのは、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニ

シアティブ（連携型）」（以下、ダ

イバーシティ事業）に採択された

ことによるところが大きい。この

事業は新潟県内の女性研究者の

活躍推進を図るために、新潟大

学が代表機関、株式会社タケ

シヨーが共同実施機関となつて実

施するものだ。ライフイベントをハ

ンデとせず研究を継続できる職

場環境の実現と、女性研究者が

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省

の、平成27年度に文部科学省



研究力をつけ上位職にキャリアアップするための各種取組を一体的に実施することにより、新潟県の女性研究者の活躍推進、ひいては地域産業等の活性化に貢献することを目指している。これらを産学の複数の機関が連携し、好事例や課題を共有することにより実現しようとするものだ。当初2機関でスタートした事業だが、現在では10機関による連携に成長している。



管理職FD ワールドカフェの様子

女性研究者の声

医歯学系(大学院医歯学総合研究科)
杉山清佳 准教授

私の研究業績や女性研究者賞は
男女共同参画推進室に支えられている

女性研究者のキャリア形成期は、見事に出産期と重なります。私も米国から赴任した時、妊娠8ヶ月でした。見知らぬ新潟への単身赴任、初産、育児、テニユアトラック教員としての研究室立ち上げと、大海原に舵をきりました。思い切れたのは、米国ではそれが比較的「普通」だったからでしょう。でも、やはりと言うべきか、1人では抱えきれなかった。人々との何気ない会話に、信頼関係に、日々救われました。さらに、研究補助員および新大シッターによる支援を受け、研究の効率化はもちろん「大学にサポートされている」という心の安定を得ることができました。男女共同参画推進室の取り組みからはいつも熱量が感じられ、今日までの私の原動力になっています。研究業績や女性研究者賞などは、すべて支えの上に成り立っているのです。育児は、本当に想像以上に容赦なく、研究心を削り取ります。でも、必ず、育児から大切な何かを掴んでいると信じています。私は、尊敬する研究者から「育児と研究を両立して良かった」と心から肯定され、ようやく、これまでの自分を認めることができました。結局、一番難しくかつ大切なのは、ダイバーシティをありのままに認めることだと気付きました。近い将来、活躍する女性研究者が増えることを、妊婦の研究室主宰が「普通」と捉えられることを、切に願っています。



新潟大学男女共同参画推進室の取組

研究力向上

- 英語プレゼン研修
- 学振研究員申請勉強会
- 若手や女性研究者を対象とした賞や助成情報の提供

女性のキャリアアップ

- 女性リーダー養成研修
- 上位職シャドウイング研修派遣制度
- 女性管理職への業務補助者の雇用制度
- 新規採用女性教員への研究費支援
- 共同研究支援 (U-go Grant 女性枠)

キャリアアップ支援

仕事と生活の両立支援

両立支援制度

- ワーク・ライフ・バランス支援員の雇用制度
- ライフイベント復帰支援制度
- ベビーシッター割引券
- プレイルームの利用

両立に関する情報提供

- 両立ロールモデル交流会
- ダイバーシティ意識啓発セミナー
- 両立ロールモデル集
- 育児・介護応援ハンドブック
- 関連図書・DVDの貸出

次世代人材の育成支援

学部生・大学院生への教育

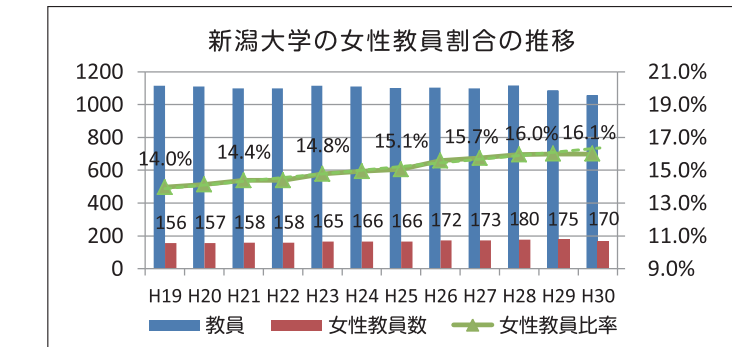
- Gコード科目「研究者の仕事と生活」
- 自然科学研究科「ワーク・ライフ・バランス」

- 女子学生が新潟県の女性研究者を紹介するニュースレター「ニッチェ」の発行
- 関連イベントへの参加旅費支援

中高生への意識啓発

- 新大Wits による中高生への出前授業「サイエンス・セミナー」
- 女子中高生の理系進路選択支援

男女共同参画に関する多岐にわたる活動





ダイバーシティ事業シンポジウム



トップ懇談会の様子

「一つの鍵とされています」（西原特任助教）
多様な人材の創出を加速させるため、平成28年4月にダイバーシティ推進委員会が立ち上げられた。これは新潟大学の国立大学法人化以降初の全学委員会。これまでの女性中心の支援をさらに発展・拡大し、「性別・年齢・国籍・障がいの有無など属性の違いで差別することなく、多様性を受け入れ、互いを尊重し合いながら全

構成員の協働を通して各個人が活躍できる組織の実現」を目指す。学長が総括する組織であり、このことから新潟大学のダイバーシティ気運を高めようという強い意志が感じられる。
「他にも、大学の意思決定者である学長や理事と現場で活躍する教職員との懇談会（トップ懇談会）を実施したり、管理職に向けた研修では単純な座学ではなく、『ワールドカフェ』形式で、直接、

話し合う場を設けるようにしています」（中野准教授）
ダイバーシティ推進のカギは「トップと構成員との対話」にあるのだ。
多様で優秀な人材の活躍を推進するため設置された男女共同参画推進室は今年10年を迎え、新潟大学のダイバーシティに関する取組は新たなステージに向けて動き出している。今後の展望はどのようなものなのか。

「ダイバーシティの重要性が叫ばれるようになった背景には、男性中心となりがちで凝り固まったモノカルチャーへの閉塞感があると言われています。そこに様々な人材や立場からの知見が入ること、新たな価値の創出が期待されているのです。声の大きい人たちの意見だけが取り入れられるような社会には限界があります。多様な構成員に目を向けることで新し

い価値観が生み出され、彼ら自身も生きやすくなる。それが大学全体を活性化させることに繋がるのだと思います」（中野准教授）
「マイノリティが抱えている問題や背景は制度から外れていることが多く、非常に複雑です。そこに取り組むことで問題解決の知を生み出すのも大学のひとつの役割だと考えます。女性だけというのではなく、幅広い層にフォーカスしていくことが重要です。昨年

新潟大学のダイバーシティの展望

多様性を認める社会の実現に貢献する



副学長(ダイバーシティ担当)
男女共同参画推進室 室長
小久保 美子

新潟大学のダイバーシティ推進は「性別・年齢・国籍・障がいの有無など属性の違いで差別することなく、多様性を受け入れ、互いを尊重し合いながら全構成員の協働を通して各個人が活躍できる組織の実現を目指すこと」という理念にすべてが込められています。「一人一人が意味のある存在である」ことを認識し、互いに尊重し合う文化を学内で醸成していくことが重要です。そのためには女性管理職の育成は大きな課題。立場を与えられて発揮できる能力もあります。上位職には教職員の日頃の活躍ぶりをよく観察し、意図的・計画的に女性教員を登用していく姿勢が求められると思います。また、年代に応じた仕事への姿勢も重要です。シニアの教授にはこれまで培ってきた知見を生かし、組織に貢献するというマインドが求められます。大学が果たすべき社会的役割は、次の社会の担い手を育成すること。ダイバーシティの意識を持った人財を育て、輩出していく責任があります。多様性を認める社会の実現とこれからの新潟のために、大学と企業、そして行政が議論していくことが重要です。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業



凝り固まったモノカルチャーを打破し 様々な人材や立場の知見から 新たな価値観を創出する

共同実施機関からの声

株式会社タケショー 管理部経営企画課 課長
川口 史さん (ダイバーシティ推進担当)

事業への参画を通し、今まで以上に 「社員みんなが活躍」できる 会社を目指して

ダイバーシティ事業は、女性研究者の活躍推進が大きなテーマですが、当社は、もともと研究職に占める女性の比率が高く、それを当たり前のように感じていました。しかし、今回の事業への参画を通して、それが当たり前ではないという現実を再認識し、どこか他人事であった「女性活躍推進」「男女共同参画」といったテーマについて、自分の事として捉えるきっかけをいただいたことは、当社にとっても、大きな収穫でした。また、事業に参画することで、企業での取り組みやその成果などの情報が入ってくるようになり、さまざまな気づきを得ることができました。本事業では、新潟大学をはじめ、協力機関の皆さんのご協力をいただきながら、事業の推進、イベント企画等に携わり、異業種のさまざまな世代の方とも交流することができました。社外ネットワークを築くことができ、当社から参加した社員も、多様な考え方に触れ、新たな発見や多くの刺激を得たと感じています。今後は、これまでに得た知識やネットワークを活かして、女性も男性も、若手も中堅もベテランも、今まで以上に「社員みんなが活躍」できる会社になりたいです、他の企業様、機関様と共に、更にレベルアップを図って参ります。



多様な人材の活躍が大学の活性化させる
「本学の女性研究者割合は微増にとどまっています」（中野准教授）
内閣府の男女共同参画白書では、研究者に占める女性の割合がOECD諸国で最下位であることが報告されている。世界経済

フォーラムが毎年公表している男女格差指数では、2018年度、日本は、149か国中110位だ。この現実が、ダイバーシティ事業を女性研究者の活躍や増加に焦点化させているのだ。しかし、人材多様化のテーマは女性だけではなく。
「産業界では、ダイバーシティ・マネジメントは経営戦略に位置づけられており、トップによる先導と多様な構成員の意見の反映が

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動を始め様々な課外活動で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします！

CAMPUS TOPICS

交通安全サポーターNUTSが県警から表彰、高橋学長へ報告を行いました

新潟県警察と連携し交通安全の普及啓発活動を行う本学の学生団体「NUTS (Niigata University Traffic safety Supporters)」の学生たちが、新潟県警察から感謝状を授与され、昨年11月27日(火)に高橋学長及び大浦理事(教育担当)へ報告に訪れました。今回の表彰は、県警察と連携して高齢者の運動機能に着目した効果的な交通安全を実施するとともに、学生主体で交通安全のための広報啓発活動を積極的に推進し、交通事故抑止に貢献をしたことが認められたものです。報告会ではNUTSの学生から、おもしろい運動や交通安全教室の実施などのこれまでの活動について語られました。高橋学長からは、「皆さんは、皆さんが思っている以上に力を持っている。ぜひ世の中に出てNUTSの活動で培ったマインドや経験を活かして欲しい。」と励ましの言葉が贈られました。



第3回 NIIGATAビジネスアイデアコンテストにおいて本学学生が準グランプリを獲得しました



第四銀行、新潟三越伊勢丹、JR東日本新潟支社が連携し、新潟の魅力や地域資源を活用したビジネスアイデアの商品化を目指す取り組みとして開催する「第3回NIIGATAビジネスアイデアコンテスト」(共催:新潟大学、後援:新潟県)の学生部門において、本学の学生が準グランプリを獲得しました。今年度は、新潟県内の大学から42件のビジネスアイデアの応募があり、プレゼンテーションを行う最終選考は、昨年11月17日(土)に第四銀行本店だいいしホールにて行われました。「学生部門」の優秀なプランには事業化に向けたチャンスが与えられます。本学からは経済学部2名(吉村真菜さん、福岡沙彩さん)の学生チーム「Sumbrella」のプランが

最終審査に臨んだ結果、準グランプリに、本学経済学部2名(吉村真菜さん、福岡沙彩さん)の学生チーム「Sumbrella」のプランが選ばれました。なお、経済学部の菅野彩さんも2年連続で最終選考に進出する健闘をみせました。

CIRCLE PICK UP!

環境系サークルひまわり

人のためになることを気張ることなく自然体で

環境問題への意識が問われる中、本学にもそれらに取り組むサークルがある。そのうちのひとつが「環境系サークルひまわり」。部員は現在44人。所属するメンバーの学部も多様だ。「入部したきっかけも、単純にボランティアを行いたい人から、新しいことにチャレンジしたい人など様々。共通するのはみんな率先して活動に取り組んでくれること」。活動は、月に一回のサークル内イベントとそれに向けた準備。イベントの中でも大きな取り組みは、リユース市と正門エリアの花壇の整備である。リユース市は、卒業式時期に不要になった家電や家具をサークルで回収し、4月の頭に新入生など必要な方に使っていただくもの。今年で17回を迎える恒例イベントだ。正門エリアの花壇の整備は、本学施設管理部とひまわりが共同で行っており、植える花の選定や花壇の手入れを担当し、来学する方を和ませ大学のイメージアップにも一役買っている。「ボランティアではあるものの、みんな気張らず自由な雰囲気です。今後はリユース市の学生としてのノウハウを行政など学外に提供していきたいですね」



肉体的労働も今では当たり前。自然体で楽しめるようになりました

サークル長
二瓶友瑠さん(農学部2年)



↑正門エリアの花壇整備



↑リユース市

新潟大学附属図書館

学術書・専門書多数。地域に開かれた明るく開放的な図書館です。

卒業生・一般の皆様もお気軽にご利用ください！

貸出用の図書館利用カード作成できます

- 貸出期間 2週間
- 貸出冊数 新潟大学カード会員：図書 10冊
卒業生：図書 5冊
一般の方*：図書 5冊 *新潟県内在住 18歳以上の方が対象

開館時間：平日 8:00～22:00
土・日・祝日 10:00～22:00
※学生休業期間については開館時間を短縮します。
※本学の定期試験期間中は、閲覧席利用をお断りすることがあります。
休館日：年末年始等

開館スケジュールや利用方法は附属図書館ホームページをご覧ください。

新潟大学 附属図書館 検索

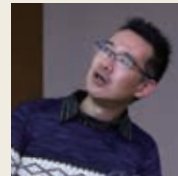
お問い合わせ先 新潟大学中央図書館 情報サービス係 TEL 025-262-6221 / FAX 025-264-2218 ホームページ <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

笠原哲也 准教授

Tetsuya Kasahara

Profile

博士(経済学)。専門は金融論、情報の経済学、経済政策。



入門マクロ経済学

経済政策の役割と機能について説明・批判する基礎力を養う

大学で初めてマクロ経済学を学ぶ学生を対象にした基礎的な講義。ミクロ経済学が、消費者や企業といった経済主体の最適行動とその結果についてミクロ的に分析するのに対し、マクロ経済学では、一国のGDP(国内総生産)や物価水準、利率、失業率といった経済指標(集計値)を対象にマクロ的な分析をする。担当の笠原哲也准教授に聞いた。

「現在、日本経済はようやく回復の兆しが少しずつ見え始めてきたものの、長期にわたる景気低迷下にあります。これらの経済指標の動向は日々のニュースでも大きく取り上げられています。学生にはこれらの話題を注意深くとらえ、現実社

STUDENTS VOICE



左:堀川智弘さん

(経済学部1年)

右:阿部和紀さん

(経済学部2年)

「経済学の論理的な思考法や国単位の経済分析について学んでいます。先日ニュースで見た日銀の緩和政策が、講義で学んだ内容に基づき行われていることが分かったときは嬉しかったです(阿部)「レジュメが充実していて、講義の内容が理解しやすいです。事前にウェブ上にアップされているので予習することができ、振り返ることもできます」(堀川)

会で行われている経済政策の役割と機能について自分の言葉で説明できる力を養ってもらいたいです」

准教授が用意する講義資料は半期だけでA4サイズ100枚弱。いずれも丁寧な解説と図が記述され、すべてウェブ上で公開されている。学生は各自でダウンロードし講義に臨む。

「私の講義で秘密なのは期

「政府や日銀はどのような経済政策を行っていて、そこにはどのような意味があるのかを理解するのは前提。学生たちにはそこから歩を進め、批判的な視点や意見を持てるようになってもらうことが目標です」



末テストの問題だけ。学生は必要な資料をすべて自由に閲覧でき、手に入れることができます。資料には空欄等はあえて作らず、テストは学んだ内容をすべて動員する論述式で実施しています。経済指標の動向に強い関心を持つとともに、その背景ではどのようなメカニズムが働いているのかを常に考えるような視点を持つことを重視しています」

経済学に必要な思考パターンと分析方法をしっかりと学ぶ過程で、学生たちがどのような力を身につけることを期待しているのか。

BSNテレビ

BSNキッズ『タネマキスカー』

土曜ランチTV

なびラテ。

土曜の12時10分〜生放送

いっすね!山崎 T.SUN 黒崎貴之 林 莉世 黒崎一樹 黒崎一樹



夜行バスで早朝に到着する学生達のために毎朝6時には出勤して開放している



新中野の就活シェアハウス

就活カフェでのイベントの様子



更なる可能性を感じてい
るとい。就職活動生同
士の交流や繋がりを深め
る場所として機能してい
るのも特長だ。
「就活生は孤独を感じ
がち。置かれた状況や未
来への思いを共有し、仲
間の存在に気付いてほし
い。生き方に対する刺激
や挑戦への勇気をもらえ
る場所であれたらと思っ
ます」
伊藤さんから見て、東
京就職を目指す学生たち
にはひとつの傾向がある。

Information

- 就活シェアハウス
<https://shusaposss.com/>
- 就活カフェ
<https://cafe.chihounomikata.com/>
- Facebook
@chihounomikata
- Twitter
@chihounomikata

「私が接して感じるのは
多様性や成長を求める学
生が多いということ。現
状維持ではなく、自ら動
くことで選択肢を増やし
ていくタイプ。高い志を
持った人たちが多いと感
じます」
地方学生の可能性をア
ピールサポートすること
は、将来的に地方創生に
繋がると続ける。

「社会は画一的ではな
く、自発的で主体性のあ
る人材を求めています。
私たちの仕事は人材の東
京一極集中を助長するの
ではありません。最終的
には経験を積んだ生産性
の高い人材を地方に戻す
のが目的。多拠点生活や
パラレルワークがさらに
一般的になる今後、明確な
ビジョンを持ち、地方に
貢献する人材を輩出する
ことが私たちの考える地
方創生です」

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



伊藤さんが取締役を務める地方のミカタは、東京で就職活動をする地方出身学生のサポート事業を展開している。
「就活カフェ」は1日100円で電源とWi-Fiを使えるコワーキングスペース。『就活シェアハウス』は滞在場所を提供するサービスです。また、インターネット上にプロフィールを登録し、地方にいなから企業に自身をアピールできるダイレクトリク

「地方学生の東京就職を支援 地方創生に繋げる」

地方学生の就職活動をサポート

”学びの先“ 活躍する卒業生紹介

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

株式会社地方のミカタ 取締役

いとう たけし
伊藤 豪さん

Profile.

1990年生まれ、秋田県出身。2013年理学部卒業。コカ・コーラ イースト ジャパン株式会社を経て2015年から現在の地方のミカタの事業運営に参加、現在に至る。

恩 師：福山利範 名誉教授 元・新潟大学農学部教授 × 教え子：竹田宏行さん 齊藤美和子さん

シリーズ vol.26 恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



福山 竹田君は僕が新潟大学に赴任して初めて卒論を担当した学生で、一番弟子。齊藤さんはその二年後輩。声が大きくてお話し好き。私は無口な方だったからとても印象的でした。

齊藤 先生、嘘をおっしゃってはいけません(苦笑)。お話し好きは先生も一緒。私はあの学年唯一の女子学生で、とても大事に接していただきました。

福山 私の専門は植物育種学で、当時はオオムギの雲形病の研究をしていました。国内ではメジャーではないテーマだったし、試行錯誤の毎日。

竹田 先生とは近隣の転作水田を雲形病を求めて探し回りました。オオムギの葉から胞子を採取するのですが、農薬がまかれていたのでなかなか見つからない。発見した時は全員で大喜び。

福山 自分の畑から病気が見つかるんだから、農家さんは嫌な顔をしていたけど(苦笑)。竹田君と集めたデータのおかげで、退職まで研究を続けることができました。かなり密度の濃い論文が書けたと思います。研究室には千を超える品種があつたけど、その交配実験では齊藤さんの力が大きかった。

齊藤 私は胚培養というミクロ技術を使っていろんな品種間雑種を作り、その染色体行動を観察しました。教育実習で研究室を不在にした時には、先生に培養を引き継いでもらいましたね(苦笑)。先生

はすごく優しく、私が実習に寝坊して先生から電話がかかってきたことも(苦笑)。結婚式にも出席いただきましたし、大変お世話になりました。

メダ」とおっしゃっていましたよね。中越地震後に、崩れた田畑の復興に尽力されたのも先生らしいと思いました。

まりがけで行くひなびた二軒家ツアー(笑)。
竹田 福島の信夫温泉や宇奈月温泉に行きました。入り口は違うけれど、中に入ったら混浴なんてお風呂も(笑)。

福山 僕はそれ知らないよ。いやいや、惜しいことをしましたねえ(笑)。

齊藤 先生はお部屋で酔ってらっしゃったんですよ(笑)。

竹田 研究室の夜はいつもみんなちゃん騒ぎ(笑)。学生が飲んでいると、先生が来られて先頭を切ってカラオケやスナックに連れて行ってもらいました。

福山 研究は熱心に、後は楽しく飲んで語ること大切。旅行やコンパはたくさんしましたね。

竹田 先生は卒論指導が熱心で、徹夜で添削してくださった。でも、赤字が達筆すぎて読めなかったんです。先生にお聞きしたら「俺も読めない」と(笑)。

福山 ふたりとも学生時代のことをいかけた仕事と生き方をしていきます。竹田君の上司から「彼は地域の農家の方とすぐ仲良くなる」という話を聞いた時は嬉しかったし、齊藤さんは教育の現場にとっても向いている人柄だと思います。

私に聞わず人と関わり生きていく際、自分のまわりにあたたかい雰囲気を作れるというのはとても大事なことです。才能だけでなく努力も必要ですから、ふたりは非常に立派だと思います。



ふくやまとしり
福山利範 名誉教授

博士(農学)。専門は植物育種学。昭和61年、新潟大学に赴任。世界各地のオオムギ品種を用いて多様な交雑試験を行う一方、熱心に教鞭を振るう。フィールド科学教育研究センター長を経て、平成22年退職。



ただひるゆき
竹田宏行さん

平成元年農学部卒業。平成3年自然科学研究科修了。現在は、新潟県三条地域振興局で農業技術の指導や普及に関わる。



さいとうみわこ
齊藤美和子さん

平成2年農学部卒業。種苗会社の勤務を経て、現在は出身の群馬県の私立中学・高校の理科教師として活躍。

一学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

- 目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、就学支援事業を行います。
平成30年度は、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」及び「新潟大学修学応援特別奨学金」に支援を行っております。

■寄附者名簿 (H30.9～H30.11寄附入金分) ※(50音順 敬称略)
〈個人〉小田 克起 柏木 道子 小高 光 佐藤 純一 中山 輝也 柳 佳司 吉塚 康一 和田 進

新潟大学基金

- 目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、研究活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (H30.9～H30.11寄附入金分) ※(50音順 敬称略)
〈個人〉池田 浩明 石田 武裕 梅田 正子 大島 勉 大桃 祐介 小川 君子 梶原 康一 川崎 克 黒田 喜久二
小高 光 後藤 由美 櫻井 治男 新保 光栄 新保 ゆかり 鈴木 保 椿 重雄 鳥羽 雅英 富岡 富男
野村 智幸 畠山 貴明 吉田 孝史 渡辺 浩匡 匿名希望 9名

〈団体〉匿名希望 1団体

新潟大学サポーター倶楽部

- 目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (H30.9～H30.11寄附入金分) ※(50音順 敬称略)

〈個人〉杉中 あい 根津 英美
二宮 登 吉田 順子

〈団体〉株式会社考古堂書店 株式会社大光銀行
JA共済連にいがた 新潟特殊企業株式会社
JA全農にいがた 株式会社富士通新潟システムズ
JA新潟厚生連 株式会社マルゴシステム
JA新潟中央会 有限会社ヤスダヨーグルト

トピックス

11月13日(火)に「新潟大学サポーター倶楽部」報告会・情報交換会を新潟市内のホテルで開催し、企業会員・個人会員、大学教職員、学生(留学生を含む)の計161名が参加しました。報告会では、同倶楽部の支援を基に実施している奨学金制度を受給した学生から活動報告を行いました。

続いて倶楽部会員企業の、株式会社タケシヨー様、JA新潟厚生連様から、同社における本学卒業生の活躍ぶりなどの報告や倶楽部に期待することについて提案がありました。

引き続き行われた情報交換会では、参加会員、大学、学生による活発な情報交換・交流が行なわれ、多くの参加者から有意義な会であったとの声が寄せられました。来年度の報告会・情報交換会は、2019年11月12日(火)に開催予定です。



新潟大学古本募金

- 目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者名簿 (H30.9～H30.11寄附入金分)

〈個人〉19名 〈団体〉3団体

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧ください。

問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 【TEL】025-262-5651・6010・6356 【e-mail】kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
【HP】https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

新潟大学
古本募金

読み終えた本が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」
とお伝えください

お申込み 新潟大学古本募金 0120-29-7000 (受付) 9～18時
(運営) 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 新潟大学サポーター連携推進室 TEL. 025-262-5651, 6010 真の強さを学ぶ。 新潟大学

今回のテーマ 「僕のターニングポイント『マッスル』 両国大会」

2 月16日、東京・両国国技館で僕の中身であるプロレスラー、マッスル坂井が主催するプロレス興行「マッスルマニア2019」が開催され、なんとか無事に終了することができました。これは僕が若手だった2004年から一度引退する2010年まで定期的に開催していた大会で、構成から演出まで全て自分で行ったものでした。



後楽園ホールで「笑点」の収録とプロレスの興行がダブルブッキングしてしまったために、しかたなくレスラー同士が「大喜利」で対決することになったり、フィギュアスケートの対戦基準でプロレスの試合をやってみたり、いろいろな映画や演劇をサンプリングしながら「プロレスの一面白さ」を拡大表現するために死ぬ気で取り組んでいました。

新潟に帰ってきて8年経って、プロレスを取り巻く環境も変わりました。新日本プロレスがブームになり、僕が所属していたDDTプロレスはサイバーエージェントの子会社になりました。そんな

中、DDTプロレスの高木社長から「もう一回、マッスルを両国でやってみないか？」と打診された時は、正直悩みました。自分だけじゃなく、当時のメンバー全員が大人になって、社会的な立場も変わってきて、そのうちの1人だった酒井一圭さんなんてムード歌謡グループのリーダーになって紅白舞台戦にも出場しました。

「今、41歳の自分にできることはなんだろうか？死ぬ気でプロレスに取り組んでる場合なんだろうか？」という自身の問いを、そのまま興行のテーマにすることになりました。大会の開催宣言でラップグループ・RINSTERの宇多丸さんが映画評論家の萩弘弘さんの言葉を引用して「これは『する』『しない』の人生の分かれ目で『する』という方を選んで、勇気ある人々の物語です」と映画「ロッキー」シリーズに重ねて「マッスル」という作品を解説してくださっていました。

舞台袖でそのスピーチを聞いていた僕たち選手全員に「俺たち今日はシルベスター・スタローンなんだぜー」という魔法がかかりました。選手だけじゃありません。ゲストとして参戦してくる山里亮太、クロちゃん、藤井健太郎、純烈といった百戦錬磨の芸能界のトップランナーたちもその瞬間、背筋がスツと伸びました。みんながみんな負けない戦いを生き抜いている男たちです。このマッスル両国大会は自分にとっても人生最大のターニングポイントでしたが、あの空間を共有した全ての人にとってそうなるってほしいな、と心から思える1日になりました。

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム

“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第10回は法学部です。

第10回 ● 法学部 カップルをめぐる文化と法律

「私」はカップル関係をめぐる法律のあり方について研究しています。そして、昨年8月本まで1年間、在外研究の機会をいただきフランス・パリに滞在しました。現地の研究者と話をすることで何が課題とされているのかを知ることができると、行ってみなければ分からないことを知ることができるのが在外研究の醍醐味です。中でも、実際のフランスの人たちの様々なカップル関係のあり方、家庭生活のあり方（もちろん部分的ではありますが）が目にとりやすかったです。できたことは、法律を研究する上でも有意義であったと思います。

例えば、高校生と中学生のお子さんがいるご夫婦のお宅でのお食事に初めてご招待されたときのこと。中学生のお子さんはまだ「子ども」扱いで、大人たちの食事の前に食事を済ませ、大人たちが使うお皿を食卓に並べた上で、挨拶をして自室に入ります。幼稚園に通う私たちの息子も別室で寝かしつけられ、大人たちの輪には加わりません。他方、高校生のお子さんはもう大人の一員として同席することが許されます。実際している彼女も途中からやってきました。「親も公認の仲」のようです。ところで、そのお食事会には私たち以外にも2組のカップルが招かれていました。1組は、既に自立したお子さんがいる再婚の男女のカップル、もう1組は男性同士のカップルでした。その男性同士のカップルは、最近家を購入されたばかりのようで、どのようなインテリアにするかなどを検討しているところだったので家からの写真を見せていただきました。

こんな何気ない日常のコマから、フランスの「カップル文化」の一端を知ることが出来ます。高校生でもカップル形成が許されていること、中学生以下の子ともがいる家庭でも夜は大人の時間であり、カップルで過ごす時間とされていること、お食事会をするときにはカップル単位で招待すること、初婚で婚姻している男女のカップルは

大島梨沙 法学部准教授

専門は民法学。主にフランスの婚姻、民事連帯契約(PACS)、内縁における法との比較により、日本におけるカップル関係の法的取扱いのあり方を研究。



フランス・ボルドーの大審裁判所
婚姻の挙式が行われるフランス・パリ19区の区役所

かりでないのは当たり前である。このような「カップル文化」がある国の法律やそこで採用されている解決と、そうではない日本の法律や日本で採用されている解決が、完全に同じになるはずはありません。それでも、外国の生活のあり方や法律を知ることによって、日本のカップル関係や家庭生活のあり方と法律を相対化する目線ができることは、私が日本の法律の研究をする際に不可欠なものです。いまカップル関係を取り扱う日本の法律が定めるルールによって、現実には大きな不利益を受けている人たちがいます。選択的夫婦別姓や同性婚を求める動きが出ていることはよく報道されていると思いますが、他にも様々な課題があります。こういった課題に対して、今ある法律をどのように適用して解決すべきか、立法による解決が必要ならばどのような法律にすべきかといったことを日々考えています。より良い世の中になるために少しでも私が貢献できるならばこれ以上のことはありませんが、もしそうでないとしても、「カップル関係」がもっと複雑な性質にアプローチすること自体、人間とは何かを理解することにつながるように、面白みを感じています。

新潟大学キャリアセンター
CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

OB・OGの皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリアセンター TEL : 025-262-6087 FAX : 025-262-7579 E-mail : shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL http://www.career-center.niigata-u.ac.jp

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

文部科学省にて「日本酒学」企画展示及び「日本酒学体験講座」を実施しました

昨年11月15日(木)から12月25日(火)まで文部科学省新館2階エントランスにて「地方総合大学の強みを活かした、新たな学問分野『日本酒学』の確立と地域創生の取り組み」をテーマとした展示を開催しました。本展示では「日本酒学」の取り組み等をパネルや動画で分かりやすく紹介しました。また、その一環として12月17日(月)には同省旧館にて「新潟大学日本酒学体験講座」を開催



し、昼の部、夜の部の2回開催で各回30名の募集に対し、延べ約200人の応募があり急遽定員を各回80人に増やしました。昼・夜の会ともに日本酒学のエッセンスが感じられる講演を様々な講師が担当。最後に行われた「新潟清酒の特徴、試飲」では、実際に3種類の新潟清酒が銘柄を明かさず受講者に配られ、甘口から辛口の段階をひとつひとつ慎重に香りと味で確かめました。「日本酒を飲むだけでなく、食との相性や流通等まつわる話を聞いて勉強になった」「今後も東京で講座を開催して欲しい」との感想が聞かれる等、日本酒学への関心の高さが伺えました。

株式会社福田組と連携協定を締結しました



本学は、株式会社福田組と組織的な産学連携を推進し、相互の発展と地域社会への貢献を図ることを目的として、昨年10月23日(火)に連携協定を締結しました。同社とは、工学分野を中心に教育・研究の両面において連携を行ってききましたが、組織的な関係へと発展させることで、技術開発や事業化の加速、学術研究振興や人材育成に繋げ、地域社会の発展に寄与することを目指します。協定式において、高橋学長は「地域に根差した総合大学として、幅広い分野での教育研究成果を新潟県の発展に役立てたい」と述べ、株式会社福田組の太田社長は「技術開発や人材育成の連携により、企業価値を高めるとともに、社会と地域に貢献したい」と述べました。本学は、教育研究成果を広く社会に還元すべく、総合大学の力を存分に発揮した様々な取り組みを進めています。

ボルドー大学と大学間交流協定を締結しました

本学は、1月15日(火)にボルドー大学と大学間交流協定、および同大ブドウ・ワイン科学研究所(ISVV)と本学日本酒学センターとの部局間交流協定を締結しました。ボルドー大学の元となる大学は1441年に設立され、現在のボルドー大学は2014年に再統合された、長い歴史と国内第3の規模を誇る国立大学です。全学術分野を有する同大の中でも、ISVVは国内外でトップレベルのブドウ・ワイン学研究機関として知られています。本学では、新潟大学日本酒学センターにおいて、ワインの世界的な銘醸地であるフランス・ボルドー地域の中でも著名な ISVVとの連携について協議を重ねてきました。このたびの部局間交流協定は、本学日本酒学センターと新潟県および新潟県酒造組合の協力のもと、醸造学をはじめとした分野での共同研究・学生交流を目指し締結されたものです。また、大学間交流協定が締結されたことで、最初に自然科学系を中心に、更に幅広い分野での研究・学生交流を目指していきます。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2019.WINTER No. 27

発行／平成31年2月
編集／新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話／025-262-7000
FAX／025-262-6539

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

Facebook 新潟大学 Facebook

<https://www.facebook.com/niigata.univ>

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報センターまでご連絡ください。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。